

CO-CREATION

共創の詩 May 2023

We are surrounded by many lives. You were born in this region, have grown up with love and dreams about your future, helping everyone in your family and living for happiness. We should be proud of ourselves since we are working for the ones dear to us. Bring smiles to people around you by working and make life meaningful!



REPORT 01

総合計画をツールとした「夢」の実現支援

REPORT 02

空家再価値化プロジェクト「解く」～エブリプラン新規事業への挑戦

NEWS AND TOPICS ニュース & トピックス

広島備北事務所を開設しました！

このたび、広島県三次市布野に弊社の中山間地域の拠点となる「広島備北事務所」を開設いたしました。所長の宮崎保通(技術士:都市及び地方計画、土地区画整理士、土地改良換地士)は、長年まちづくりに従事し、都市マスタープランや立地適正化計画をはじめとする都市計画策定の実績を多数有しております。鹿児島県に生まれ、広島市内で暮らしていましたが、このたび布野に移住し、美味しい米づくりを始めるとともに本事務所を開設いたしました。これまでに培った知見を活かし、中国地方の地域活性化に寄与できるよう尽力してまいります。

●山陰広告賞2023 二部門受賞！

山陰両県で制作された広告作品がその魅力を競う「山陰広告賞2023」において、松江市総合計画「MATSUE DREAMS 2030」が186作品から地方創生賞に選ばれました。受賞時には「松江市の未来を理解してもらうために、行政の総合計画というデザインが及ばなかった場所にデザインを持ち込んでいる」との評価をいただきました。また、「松江の出雲そば」ブランド化プロジェクトの一環で制作したブランドロゴ「松江が育む出雲そば」が、デザイン部門の金賞に選ばれました。

今後も、地域のデザイナーの皆様をはじめ、さまざまなパートナー企業の皆様とともに、地域の価値創造に挑戦してまいります。



松江市総合計画



松江が育む出雲そば

●AI脳画像解析サービス“認知症リスク検査”に関するERISAの取り組みが日本テレビの情報番組「ウェークアップ！」で全国放送されました

認知症は、老いと誰しも発症する可能性がある、ありふれた病気ですが、早期から、適度な運動やバランスある食事等を日常生活に取り入れることで、予防できると考えられています。認知症リスク検査は、認知症の将来リスクを知ってライフスタイル見直しのきっかけの提供を目的とした検査で、50歳以上の方はどなたでも受けることができます。この度、この検査を開発した弊社の取り組みが、日本テレビ系列の毎週土曜日の朝の情報番組「ウェークアップ！」で放送されました。全国の視聴者からも大きな反響があり、多くの医療機関にも関心を寄せていただいています。より多くの方が検査にアクセスできるよう、全国の自治体との連携も深めています。



2023年3月25日放送ウェークアップ！より



番組公式 YouTube

●エブリプランは一級建築士事務所登録をしました

企業理念:地域の未来への挑戦を支え、輝く地上の星々を共創します。



株式会社 エブリプラン

本社 〒690-0816 島根県松江市北陵町46-6 ソフトビジネスパークD地区
TEL.0852-55-2100 FAX.0852-55-2101

中国支社 〒730-0851 広島県広島市中区榎町7-6
AXIS樓町
TEL.082-942-1320 FAX.082-942-1310

備北事務所 〒728-0202 広島県三次市布野町下布野362

ホームページ



株式会社 ERISA

業務内容 医療・産業分野における
人工知能を用いたソリューションの提供
TEL.0852-61-8400
FAX.0852-61-8401

ホームページ



経済産業省認定

地域未来牽引企業



エブリプランで働く社員は、
プライバシーマーク取得企業である
責任と自覚を持って業務に取り組みます。

地域共創本部 主任

小田 千愛

Chiaki ODA

滋賀大学経済学部卒業

滋賀から1ターンし6年が経ちました。
未来への想いを持った方々とともに
心が動く瞬間を共有できるよう精進します。



夢を語る対話の場づくり

わくわくする総合計画
市民が手に取りたいくなる、わくわくするような計画を作る。
これが松江市総合計画の策定における基本方針でした。従来の総合計画の概念を取っ払い、課題から計画を考える手法ではなく、松江のありたい姿を思い描き、そこに向かうための道のりを考えるバックキャストイングという手法で策定しました。絵本の双方向が計画を自分ごととして置き換えられる一冊となるよう心掛けました。計画策定後、総合計画をいかに若者に浸透させるかとの課題意識から、総合計画をツールとした人材育成支援に取り組みこととなりました。

若者が関わりたくなるコミュニティ「ミライソウゾウ会議」

総合計画に示される「MATSU DREAMS 2030」の実現に自分ごととして関わる若者を増やすことを目指し、高校生から40代以下の若者を対象としたワークショップを企画。松江の夢（MATSU DREAMS）と自分の

夢（YOUR DREAMS）との重なりを見つけ、それぞれが自分なりのチャレンジを語り合う機会を繰り返しました。

手探りでスタートでしたが、参加者同士の対話を重ねたことが奏功し、ワークショップ終了後は、それぞれが自発的にアクションを起こしつつ、互いに伴走し合うコミュニティへと発展しました。

新たな事業・活動の誕生

ミライソウゾウ会議への参加をきっかけに多くのチャレンジが生まれ、仲間の輪が広がっています。

この春、松江で唯一の人力車事業が始動しました。短期間で事業化に至った背景には、本人の行動力に加え、仲間の応援や協力が大きな支えとなりました。

この他、松江市出身の学生たちが主催する「MATSU E学生祭」に、ミライソウゾウ会議として、伝統芸能のステージパフォーマンスや特産品を活用した飲食・体験ブースを出店しました。それぞれが夢の実現に向けた一歩を踏み出すとともに、メンバー一丸となって松江市の将来像でもある「夢を実現できるまち」を表現する機会となりました。

コンサルタントとしての挑戦

私たちは、こうした人材育成事業に携わる中で、多種多様なチャレンジを身近に拝見し、一人ひとりの小さな行動の積み



MATSUE学生祭ステージで「夢を実現できるまち」を表現



松江城の周りを走る人力車

重ねがまちの未来を変えていくことを実感しています。私自身もまた、ミライソウゾウ会議をきっかけに、松江に暮らす一市民として、まちの未来を創造していく一員でありたいと自覚するようになりました。
今後も、地方のコンサルタントとして、計画策定だけでなく計画の実行にコミットしていけるよう、私たちなりのチャレンジを続けてまいります。

空家再価値化プロジェクト「解く」

エブリプラン新規事業への挑戦

地域共創本部 地域システム推進室長
一級建築士 / 技術士(都市及び地方計画)

守山 基樹

Motoki MORIYAMA

京都大学工学部建築学科 卒業
京都大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程 修了

持続可能で豊かな暮らしのモデルを島根に見出し、
島根を新たな社会デザインの発信地とするべく
地域資源の活用に取り組んでいます。



というニュアンスが感じられます。伝統的な建築は材料の再利用が前提でした。「解く」ということには、循環を生む近代以前のものづくりの考え方が残されています。

空家は動かさないために価値が出ていくのですが、動かすことができれば価値を与えることができます。わたしたちは、本プロジェクトによる商品やサービスのブランド名を「解く」と名付け、次の事業の展開を始めています。

①規格化古材販売事業

建築の劣化が進み、立地条件がよくない空家について、古材を現代の木材規格に従って製材・加工し、建築や家具のデザイナーに向けて販売します。

規格化にあたり古材調達、釘抜・洗浄、製材、木工加工の4つの工程が必要になります。培ってきた地域民間企業とのネットワークにより、県内の解体事業者、製材事業者、木工事業者といったパートナー10社程度と製品の試作を重ねています。開発した商品は、6月に東京ビッグサイトで開催される「インテリアライフスタイル2023」に出展し販路開拓を進めます。

②リノベーション・移築事業

保存状態がよい空家について、リノベーション・移築による価値化を行います。「日本の伝統的文脈に即しつつも単なる保存・再現ではない現代的価値を創造する」をコンセプトとして掲げ、サービスの独自性を確保します。

本来であれば地域にある空家はその地域でその地域の人々により活用されることが理想ですが、立地条件からなるべくして空家になっっていることも現実です。このような空家に



大断面古材を製材



古材の洗浄と釘抜



大断面の地マツが使われている島根の古民家



規格化古材商品の試作

地域資源として
「空家」を捉えなおす

エブリプランは、社会課題として捉えられている「空家」を、地域資源として捉えなおし再価値化する新規事業に挑戦しています。島根県の多くの空家は、現代では人手困難な質の高い材(大断面の地マツ材)を使った古民家であり、そこに現代的価値を付与する試みです。

島根県の住宅数に対する古民家の割合は9.41%で全国1位です。島根に古民家が多い理由は、廻船業や鉱業などの近代以前の産業拠点であったのが、近代以降の産業構造の転換により近代化の波から取り残されたと推測できます。別の見方をすれば、日本の原風景が残された地域であり、人口減少を迎えた日本の転換期に求められる持続可能社会のモデルと見なせます。

「解く」ことによる再価値化

島根では家を解体することを「解く」といいます。壊す・棄てるといったイメージが強い「解体」に対して、「解く」には再び活用するは、解体や自然に朽ちていくのを待つよりは、移築による活用可能性を見出したいと考えています。

③海外での日本の古民家活用ニーズの開拓

海外において島根の古民家の評価は高く、先例となる移築事例がいくつかあります。本事業では、海外への移築ニーズの開拓に向けて、インバウンドを対象とした島根の空家古民家を巡る旅行商品を企画します。通常の旅行では行かない非観光地における生の暮らしと建築を見てもらい、古民家の魅力を伝えるとともに、実際に物件の購入・移築を検討してもらうことが目的です。こちらは、9月にアムステルダムで開催される「MONO JAPAN 2023」に出展予定です。

コンサルタントからプレイヤーへ

本事業の社会的意義は、空家問題の解決策であることに加えて、地方の魅力の再発見・新たな価値づけにつながり、過疎地域や限界集落に人々の流れを生み、雇用創出、Uターン促進といった、地方創生を総合的に支える点にあると考えています。本事業は古民家の質・量に優位性のある島根を皮切りとしてビジネスモデルを構築しますが、その先には、島根発のモデルを日本全国に展開し、全国の共通課題に込めることを見据えています。

エブリプランはこれまでコンサルタントとして地方自治体や民間企業に対する支援事業を展開してきました。いま、27年間に渡って蓄積してきた地域課題解決のノウハウとネットワークをフル活用し、事業の当事者(プレイヤー)として新しい地域の未来を拓きます。

1 project review

中海を満喫できる多目的広場 「中海スポーツパーク」の実施設計

松江市内にはナイター設備を完備した人工芝の多目的グラウンドは、松江総合運動公園補助競技場しかありません。

また、松江市内でサッカーの公式戦が開催できる芝生グラウンドは、他市に比べ少ないため、市外の施設を利用せざるを得ない状況です。

そのような状況を踏まえ、市民がスポーツに親しむことができ、スポーツ振興や健康づくりを推進するとともに、中海周辺地域の活性化を図るため、人工芝を備えた多目的広場をメインとした(仮称)中海スポーツパークの実施設計を行いました。



(仮称)中海スポーツパークの3Dパース



(仮称)中海スポーツパークの平面図

業務名：(仮称)中海スポーツパーク実施設計業務委託
発注者：松江市
受託年度：令和4年度

2 project review

雲南市林業振興ビジョン

雲南市では「孫の世代」に豊かな森林を引き継ぐための林業振興ビジョンを策定しました。

“持続可能な森林の循環”をつくりだすために、循環型林業を進め機能的な環境林をつくる「森林経営」と、それを支える資金循環を生み出す「林産業振興」を実施し、「暮らしを支える森林」として機能することを目指します。そしてここ10年の林業振興方針を“森林(もり)を未来につなぐ(循環・還流)”とし、「森林(もり)を活かす」「森と木で稼ぐ」「人を育てる」の3つの柱で事業を進めます。弊社は、合同会社グリーンパワーうんなんの運営を通して、雲南市の森林・林業振興に貢献していきます。

業務名：雲南市林業振興ビジョン策定支援業務 発注者：雲南市農林振興部 林業畜産課
受託年度：令和4年度



雲南市林業振興方針の事業イメージ図

3 project review

デジタルイノベーション(新事業創出) 人材育成

島根県内の魅力的な新事業創出に向けてデジタルイノベーション人材育成プログラムを担当しました。県内のIT企業・非IT企業から10名の方に参加していただき、事業開発の進め方、デザイン思考やリーン・スタートアップの考え方をお伝えしました。その後、具体的なテーマを設定し、仮説構築・検証をチームで実践しながら事業計画を検討してもらいました。参加者からは、チームでのアプローチ、プロトタイプ、仮説検証などの大切さに気付けたというコメントをいただいています。これからも魅力的なビジネス創出に様々な形で貢献してまいります。



チームビルディング
(マシュマロチャレンジ)



最終報告会の様子@テクノアークしまね会議室

業務名：デジタルイノベーション(新事業創出)人材育成事業
発注者：島根県商工労働部 産業振興課 情報産業振興室
受託年度：令和4年度

PROFILE

ERISA チーフAIエンジニア

内藤 純平 Junpei NAITO

京都大学大学院情報学研究所 修士課程修了
大学では、同郷であり、島根県にもゆかりの深い
鹿島久嗣教授に学びました。
機械学習の専門家として、医療画像を始めとした
社内外のデータ活用に努めています。

島根に住むデータサイエンティストとして

自分自身について

島根県で生まれ育ち、大学で京都へ行きました。データサイエンス、機械学習を学ぶためにに入った研究室の教授が偶然島根県出身で、研究を行ううちに縁ができ、島根県での就職を決めました。効率化、自動化が好きであり、入社して4年が経過した現在、医療画像に対する機械学習技術の応用を始め、上流工程から下流工程までシステム開発業務全般に関わっています。

島根県で行う機械学習応用

機械学習は、一般的に人工知能、AIと呼ばれるシステムを作る際に使われる技術のひとつであり、大量のデータから特徴を抽出し、得られた特徴を用いて自動処理、自動判断を可能とします。機械学習にはデータが不可欠ですが、学生時代に共同研究の関係で島根県を訪れた際、県内では機械学習技術の供給が不足しており、活用されことなく眠っているデータが多々あることが感じられました。実際に、弊社の事業である脳MRI画像の解析では、島根県で蓄積されてきたデータの存在が大きく影響しています。世の中にはデータが多数あり、中には実用のできるデータも存在しているはず。現在はインターネットが普及しており、得られる情報の地域差は少なくなっています。最新技術等に関する情報は地方で仕事をしている間も得られるため、地方にいるデメリットが薄くなっている今、未活用のデータに対してデータ解析、機械学習の専門家として関わり、活用の道を与えることが、島根県で機械学習を行う意味ではないかと考えています。

今後の目標

機械学習技術には長期間触れてきましたが、まだまだ応用面では不足を感じています。少しでも多くのデータを活用するためには、より機械学習技術について精通し、わずかな特徴を発見する手法を身につけることが必要になるのはもちろんのこと、活用先を発見するために、そのデータが取得された分野の知識を持つ必要があります。また、自分ひとりの目線で済ませるのではなく、複数人の目から活用の可能性を探るため、機械学習、人工知能についての知識を一般に広めていく必要もあるでしょう。機械学習応用について理解を進め、知識を普及させ、データの活用を進められる人物でありたいというのが1つの目標です。



普段のシステム開発風景



音楽も趣味です 社外での技術紹介の準備